

第23回ファイザーヘルスリサーチフォーラムで助成金を受賞しました（2016/12/3）

テーマ：医療・介護・福祉のパラダイムシフト
 会場：千代田放送会館（東京）

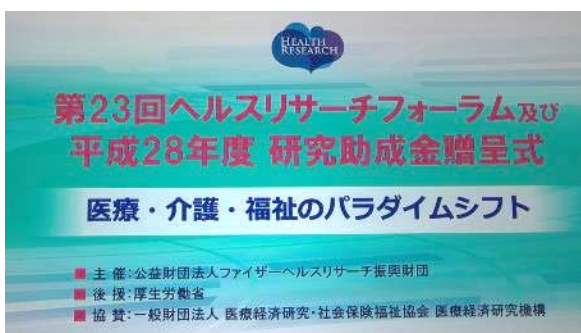
2016年12月3日（土）に第23回ファイザーヘルスリサーチフォーラムが開催され、当研究所の江川新一教授（災害医学研究部門）が平成28年度研究助成金を贈呈されました。このフォーラムは研究助成を受けた研究者による研究成果発表に加えて、ヘルスリサーチを志す研究に広く発表の場を提供するため一般演題発表も併せて実施するユニークな研究交流の場として、23年間の長きにわたって開催されています。

江川新一教授は『東日本大震災時の南三陸町における避難所・救護所診療の医療ニーズ解析疫学研究』というテーマで応募総数160件のなかから39件（競争率4倍）という研究助成に採択されました。助成金は国際共同研究、国内共同研究（年齢制限なし）、国内共同研究（39歳以下）という3つのカテゴリーがあり、一人一人のQOLの向上を目的として自然科学と社会科学の成果をもとにすべての人が最高の医療を享受できるための仕組みについての研究が募集されます。その研究方法は、医療の受手の観点から医療を構成する要素を統合し、これら一連の関連要素を効率的効果的な社会システムとして方向づけすることであると謳っています。

フォーラムでの発表は2年前に助成を受けた研究と一般演題がそれぞれ発表され、医学、薬学、公衆衛生学、看護学さらには経済学、教育学などの研究者が分野横断的に健康をテーマにさまざまな内容で報告されました。とくに2025年に65歳以上の人口が700万人を超えるとされる前例のない高齢化社会を念頭に、医療・介護・福祉のパラダイムシフトはどうあるべきかという観点で盛んに討論がなされました。

災害医学では、DMAT 隊員のメンタルヘルスに関して国立災害医療センターから報告があり、また、薬剤の運搬過程における温度変化が品質に与える影響なども災害時には大きな問題となることが指摘されました。今年度、南三陸町の診療記録に基づく医療ニーズの把握や災害時に緊急医療支援チームが避難所・救護所の状況把握に活用するためのJ-SPEEDなどの研究テーマが採択されたことは、災害における保健医療対応が分野横断的な協調や取り組みが必要になることが認められたといっても過言ではありません。

ファイザー製薬は国内外でもトップクラスの製薬企業として社会的責任(Corporate Social Responsibility)としてこの公益財団ファイザーヘルスリサーチ振興財団を支援しています。また、厚生労働省の後援も得られており、分野横断的な健康に関する研究の場として大変貴重なものだと考えられます。選考委員長である自治医科大学学長の永井良三先生は、研究テーマの特徴とともに、説得力のある申請書の書き方として重要なポイントを掲げてくださいました。災害研が健康の社会的側面に関して幅広く応募すべき競争資金であると考えます。



助成金贈呈式



ヘルスリサーチの概念

文責：江川新一（災害医学研究部門）